

糖尿病疾病管理への国保データベース(KDB)の具体的活用法

岡本悦司(国立保健医療科学院)

研究要旨

市町村(保険者)が効果的な糖尿病疾病管理を実施するために国保データベース(KDB)を活用する方法をKDBのマニュアルと糖尿病疾病管理MAPを結合させて具体的な活用法を示した。来年度においてはこの活用法にそって市町村において糖尿病性腎症重症化予防を実施してゆく。

A 研究目的

保険者が効果的な糖尿病疾病管理を実施するためには、介入を必要とするリスク者を的確に把握することが不可欠である。2014年度から稼働する国保データベース(KDB)は、特定健診と国保介保レセプトを突合した有益なツールであり、来年度において埼玉県秩父地域において実行するために、市町村がKDBを使って疾病管理MAPを作成するための方法を作成する。

B 研究方法

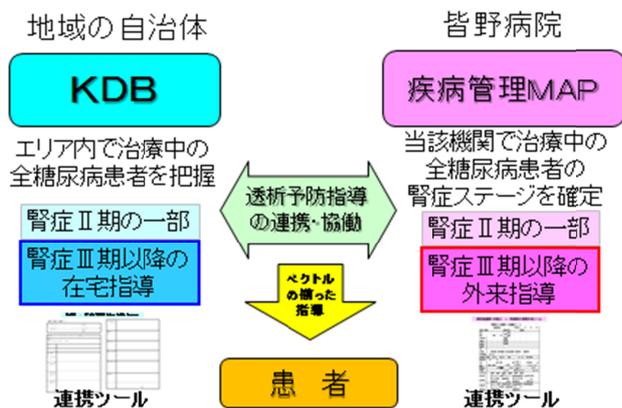
平井が提案する糖尿病疾病管理のためのミニマムデータセットをKDBを活用してどのように抽出するかをKDBマニュアルと照合して作成した。

C 研究結果

1) KDBと疾病管理MAPの連携

放置者やコントロール不良者も含む全被保険者を含むKDBは介入を要する対象者の抽出に用いられる。発見された対象者には市町村の保健師が保健指導を行う他、治療を開始した医療機関等は、その電子カルテより疾病管理MAPを作成して患者管理を行う。

秩父地域: 糖尿病性腎症重症化防止に向けたKDBと『疾病管理MAP』の連携・協働



2) 糖尿病疾病管理に必要なミニマムデータセット

対象者選択に必要なデータセットは以下の通りである。このうちIMTは特定健診では入手できないが、その他は特定健診受診者については入手可能である。

糖尿病疾病管理MAP		
ミニマムデータセットの主要項目とバリエーション値		
	データ項目	バリエーション値
DM	HbA1c(血液)	>8%×2回
	eGFR(血液)	<50ml/min/1.73m ²
CKD	U-A1b(尿)	>30mg/gCre
	U-pro(尿)	>0.5g/gCre
CVD	IMT(頸動脈エコー)	≥1.5mm
	LDL-C(血液)	設定なし

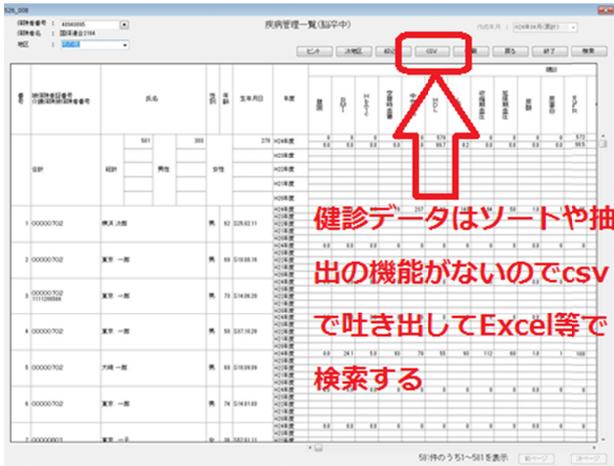
➡ 最小限のデータセットで最大限の介入効果

3) KDBによる対象者の抽出

上記に該当する者を特定健診受診者から抽出するには、疾病管理(糖尿病)メニューより対象者一覧を表示させる。



しかし健診データはそのままでは、ソートしたり抽出ができないので「csv」をクリックして csv ファイルとして吐き出して、Excel 等で検索する。



健診データはソートや抽出の機能がないので csv で吐き出して Excel 等で検索する

4) 服薬による管理 MAP

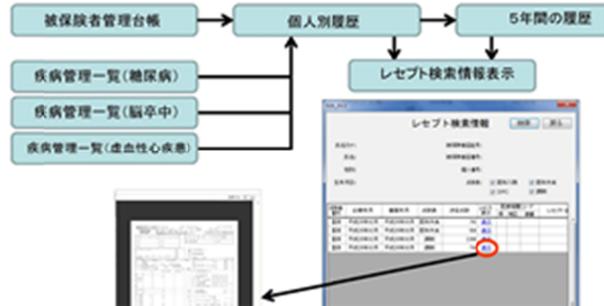
現に治療中の者の管理 MAP はたとえば投薬の種類によっても行う。

たとえば SU 剤の投与を受けている患者をリストアップし、以下のような管理 MAP を作成する。

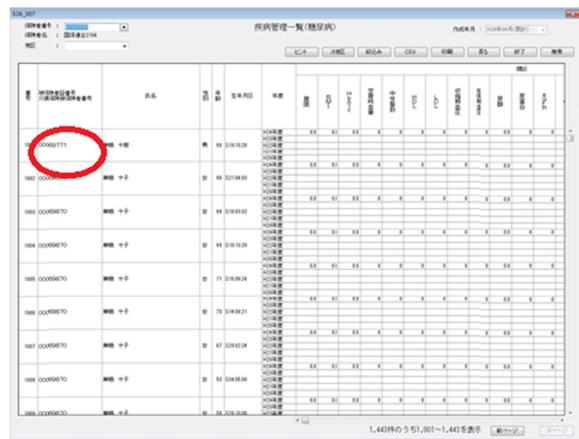
SU 剤管理 MAP

そのためには KDB の疾病管理一覧(糖尿病)より対象となる個人を抽出する。しかし疾病管理画面では、健診結果とレセプトの傷病名しか記載されておらず、投薬内容まではわからない。そこで抽出された個人について個人別履歴 レセプト検索

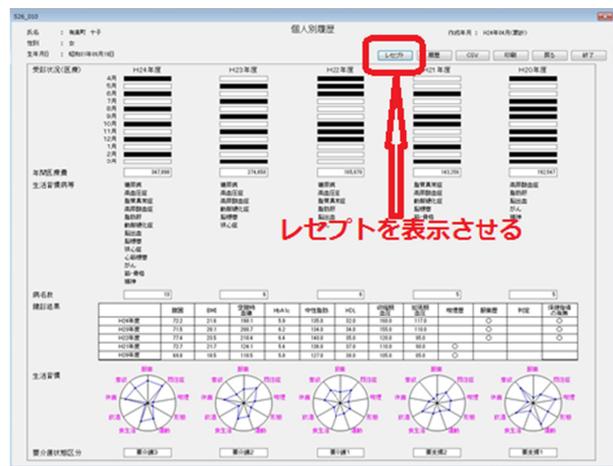
情報を表示させる。



糖尿病疾病管理画面を表示させ、希望する個人の被保険者記・番号のところをクリックする。



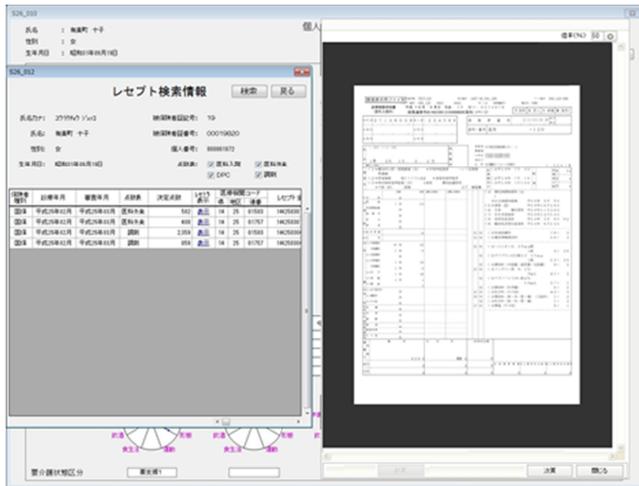
過去 5 年間の個人別履歴が表示される。下図中、黒い部分はレセプト無を示す。記載された傷病名のうち生活習慣病関連病名も表示されている。メニューより「レセプト」をクリックするとレセプトの画像が表示される。



レセプトを表示させる

下のように医科と調剤レセプトが表示されるので投薬内容を把握することができる。しかし、特定の薬剤だけを抽出する機能はなく、これが現在の KDB の限界であり、特定の薬剤の服用者のみを抽

出するにはやはりレセプトデータ(csv)そのものの分析(たとえば ACCESS でも可能)が必要となる。



G 研究発表

論文

岡本悦司. 糖尿病疾病管理へのレセプトカルテ活用の試み. 糖尿病情報学会誌 12 号 28 ~ 35 頁 (2014)

D 考察

KDB は特定健診と医科・調剤レセプトデータを個人単位で結合できる。しかし糖尿病疾病管理に必要なミニマムデータセットを抽出するにはいったん csv で吐き出して Excel 上で処理しなければならず、また服薬内容をチェックするにもそのままではレセプトを画像表示させてチェックするしかない、という限界も明らかとなった。

それゆえ、KDB も万能ではなく、市町村が効果的の疾病管理を行うためには、KDB に加えて Excel や ACCESS でレセプトデータの処理を行う必要性はなおも残ると考えられる。とはいえ、やはり膨大な被保険者の中から疾病管理の対象者やレセプトデータを瞬時に検索できる KDB の効果は絶大であり、KDB は保険者による糖尿病疾病管理を可能にする有力なツールとなると期待される。

E 結論

本年度の研究で示した活用法により、来年度においては埼玉県や千葉県等の市町村において糖尿病疾病管理を実用してゆく見通しがたった。

F 健康危機管理情報

なし

